

2011年4月入職

むらた ゆうき
村田 祐樹



患者さまにオリジナルソングをつくっていただきました

自分が受け取ったバトンを、次につなぎたい

自分がしてもらったことは、誰かに返したくなる。私はそんなタイプなのかもしれません。今は新人を教育する立場にありますが、その役職だからやっているという感覚はあまりないのです。入職してからの日々を振り返ってみると、本当に色々な方たちに支えられてきたという実感があります。上司だけではなく、他部署のスタッフにもたくさんフォローしていただきました。他のクリニックに応援に行ったときもそう。失敗した際にも「次に頑張ればいいよ」って、みんなが気軽に声をかけてくれました。当時は学生気分が抜けず、礼儀や言葉遣いも十分ではなかったと思いますが、そんな私を温かい目で見守ってくれたことに、すごく感謝しています。このスタッフたちじゃなかったら、今この場にはいないでしょうね。

ですから、「教える」というよりも、自分が経験してきたものを「伝える」と表現した方が正しいのかもしれません。上司・部下のような縦の関係性とはまた違う関係です。必要なときはしっかり注意することもあります。基本的には横並び。私はプライベートでサッカーのコーチをしています。そこでもスタンスは同じです。もともと自分が在籍していたチームで、育ててくれた恩返しをしたくてボランティアでやっています。これからも、周囲のフォローがあってこそ今があるという気持ちを忘れず、今度はそのバトンを次につないでいきたいですね。

テーマソングのタイトルは『僕はイケメンいい男』



感謝の気持ちは、患者さまに対してもあります。中でも印象的なのが、私のオリジナルソングを制作して下さった患者さまです。もともと詩や俳句を書いていた方で、ある日「歌をつくってくるね」とおっしゃいました。歌詞はその方が担当して、作曲は知り合いの方に頼んだそう。実際にCDが出来上がったときは本当に驚きました。タイトルがなんと『僕はイケメンいい男』。普段、私と接している中からイメージを膨らませて、歌詞を書かれたとのこと

です。クリニックの控え室で聞いたのですが、今までに聴いたことのない雰囲気の中で、他のスタッフからも好評でした。私は恥ずかしかったですけど（笑）。人生でもう二度とないことかもしれないので、自分のテーマソングとして大事にしていきたいと思っています。



お客さまに私の最高の笑顔を提供いたします。

村田 祐樹